

地方独立行政法人 北松中央病院

公的医療機関等2025プラン
(参考資料)

平成29年12月策定

[地方独立行政法人 北松中央病院の基本情報] 平成28年度

医療機関名 : 地方独立行政法人 北松中央病院 (ほくしょうちゅうおうびょういん)

開設主体 : 佐世保市

所在地 : 長崎県 佐世保市 江迎町 赤坂 299

許可病床数 : 189床

稼働病床数 : 144床

(病床の種別)

第二種感染症病床 2床 一般病床 142床 (内 地域包括ケア病床 15床)

(病床機能別)

高度急性期 0床 急性期 144床 回復期 0床 慢性期 0床 (休床 45床)

診療科目 内科・呼吸器科・循環器科・腎臓内科・消化器科・糖尿病代謝内科・内分泌内科
神経内科・外科・脳外科・整形外科・放射線科・リハビリテーション科

職員数

- ・医師 常勤医 内科医 8名 外科医 1名
- ・看護職員 看護師 121名 准看護師 9名 看護助手 18名
- ・専門職員 薬剤師 3名 臨床検査技師 10名 放射線技師 6名 理学療法士 8名
作業療法士 2名 言語聴覚士 1名 臨床工学士 1名 管理栄養士 3名
社会福祉士 1名
- ・事務職員 34名
- ・その他 14名

診療日・診療時間 月曜日～金曜日 週5日 8時30分～17時30分

平成28年度実績

平均患者数 入院患者:106.2人/日 外来患者:253.5人/日

平均在院日数:17.6 病床稼働率 73.7

主な医療設備 血管造影装置、MRI、CT 透析センター50床、手術室、内視鏡室
心臓リハビリセンター

救急車受け入れ台数 620台 当院での診療完結率96.3%

[1.現状と課題]

①構想区域の現状

当院はもともと市町村合併前までは、旧県北二次医療圏の2次輪番病院としての機能を果たしてきたため、佐世保県北医療圏に合併後も診療圏域は旧県北二次医療圏であり、旧佐世保医療圏から当院を受診することはほぼなく、旧県北医療圏について現状を検討する。

当該地域の人口は2008年には表1に示すように10万人を超えていたが、現在は9.3万人あまりとなり、2025年には8万人程度になることが予想されている。当然ながら、高齢化も進み、県の報告書によれば2035年が医療需要のピークであり、急性期、回復期病床の需要は微増から変化のない地域である。

現在の医療供給体制としては、高度急性期、急性期病床は佐世保市中心部に偏在しており、旧県北地域において不足している地域である。慢性期病床は、平戸市、松浦市には比較的充足されているが、旧北松浦郡においては不足している地域である。

【表1】 県北地区 人口推移

	2008年 (平成20年)	2017年 (平成29年)	2025年 (平成37年)
江迎町	5,883	5,291	4,800
鹿町町	5,162	4,450	3,500
吉井町	5,888	5,301	4,700
世知原町	3,959	3,326	2,800
小佐々町	6,881	5,984	5,200
上記以外の佐世保市	237,146	227,351	221,700
松浦市	25,687	23,235	20,000
田平町	7,522	6,842	6,600
生月町	7,142	5,581	4,300
上記以外の平戸市	23,761	19,763	15,700
北松浦郡佐々町	13,684	13,833	13,300
県北地区計	342,715	320,957	302,600
旧2次救急圏内地区計	105,569	93,606	80,900
長崎県人口	1,440,727	1,354,172	1,258,400

②構想区域の課題

地域の人口減少は述べたが、それにもまして、医療機関(過去12年間で、M病院の診療所化(50床から0床)、O病院の診療所化(67床から19床)、M整形(鹿町)、T内科(小佐々)、T医院(小佐々)、N医院(松浦)、M医院(松浦)、R内科(佐々)、N整形(佐々)の廃院による機能低下があり、その医療需要にこたえることができない地域である。

今後も、地域で医療を支える医師の高齢化が顕著で2025年に外来診療など一般の診療体制が破たんする可能性もある地域である。また、救急医療においても救急医療を担うべき救急告示病院が地域においてこの10年で、M病院、O病院、S病院の3病院が機能を停止した地域でもある。現在急性期医療(救急医療)を担える病院は松浦市にはなく、平戸市に5病院、旧北松浦郡には当院のみとなっている。

③自施設の現状

生命への畏敬を理念に、外来診療から急性期、回復期までの内科的医療を提供している。

比較的広域の地域であるが、平戸市南部、松浦市東部を除いておおむね当院に30分ほどでアクセスできる位置にある。

診療実績

自施設の特徴として内科系の急性期から回復期まで行うが、いわゆる10対1看護基準の急性期病床が中心の病院機能を有し、現在 129床急性期病床(内第二種感染症病床 2床)と15床の地域包括ケア病床が稼働中である(休床 45床)。

外来、入院ともに、旧県北医療圏全体から患者を受けいれている。(表2)

診療実績は表3の通りである。

【表2】 地域別 外来・入院患者数

外 来		
	年度計	%
江迎町	9,996	16.2
鹿町町	10,206	16.6
小佐々町	2,798	4.5
吉井町	5,039	8.2
世知原町	1,107	1.8
佐世保市	1,069	1.7
松浦市	8,037	13.0
田平町	5,807	9.4
生月町	2,416	3.9
平戸市	6,757	11.0
佐々町	4,438	7.2
その他県内	819	1.3
県外	328	0.5
その他	2,773	4.5
計	61,590	100.0

入 院		
	年度計	%
江迎町	6,257	16.1
鹿町町	5,499	14.2
小佐々町	3,584	9.2
吉井町	4,074	10.5
世知原町	2,021	5.2
佐世保市	790	2.0
松浦市	3,360	8.7
田平町	1,800	4.6
生月町	1,130	2.9
平戸市	3,645	9.4
佐々町	6,080	15.7
その他県内	266	0.7
県外	241	0.6
その他	11	0.0
計	38,758	100.0

【表3】 診療実績

外来延べ患者数		入院延べ患者数	
診療科	年度計	診療科	年度計
内科・神経内科	36,327	内 科	36,591
外科・整形外科	7,447	外 科	2,167
脳神経外科	182		
外来透析	17,634		
診療科計	61,590	診療科計	38,758

いわゆる5疾病5事業のなかで地域にはがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の診療を提供しているが、特に急性心筋梗塞では血管内治療のできる旧県北医療圏では唯一の施設であり、また糖尿病の診療において、非常勤ではあるが糖尿病専門医と、透析が必要になった時には常勤腎臓専門医を有する唯一の医療機関である。

がんについては、外科的治療は佐世保市中心部の病院に診断後に治療をお願いしているが、呼吸器癌、消化器癌については、入院および化学療法を行い、緩和医療も提供している。

脳卒中に関しては、急性期の診断を行い、血管内治療や、血栓溶解治療などの適応のある時に、佐世保市中心部の脳外科等での治療を行っていただいている。

5疾病の平成28年度診療実績

脳卒中 救急車搬送数 19例 内当院での加療 15例 転送 4例

心筋梗塞 救急車搬送数 17例 内当院での加療17例

冠動脈CT検査 53例 心臓カテーテル検査 152例 血管内治療 33例

心臓リハビリ 6,154単位

糖尿病 専門外来 1,681回 糖尿病新規患者 362症例

がん 診断 77例 外科紹介 32例 化学療法回数 128回 緩和医療患者数 42例

5事業のなかでは救急医療(年間620台の救急車受け入れ)、災害医療(東北震災、熊本震災時のDMAT派遣など)を提供し、旧県北医療圏では中心的な役割を担っている。加えて在宅医療としては訪問看護を併設し、平戸市(平戸市の田平を除いた地域)、松浦市を除いた地域の在宅医療に寄与しているところである(訪問看護のべ数 5,269)。

5事業ではないが、佐世保県北医療圏の中で6床ある第二種感染症病床のうち 2床を有し、新型インフルエンザなどの診療の中心的役割を担っている。。

外科系の救急に関しては常勤外科系医師の不足から受け入れ困難な状態が続いている。

④自施設の課題

佐世保市中心部の病院を除けば診療圏では最大級の病床数を有し、近隣の医療機関の機能低下とともに当院の果たす機能は重要となっている。ただ、旧県北医療圏全体でもそうであるが、医師不足が顕著であり、実質の診療実績に伴う医師充足率は80%前後で推移している。このため、診療機能を維持するためには医師の拡充が必要不可欠である。

外科系救急に対応できない状態が続いている。

[2.今後の方針]

①地域において今後担うべき役割

残念ながら、地域に機能分担できる医療機関はなく、救急医療、入院医療のみならず、在宅医療、外来診療等を担い、初期診療から中等症の入院医療までの内科的診療の役割を担う。また、当院では対応困難な疾患(主には外科的加療の必要な疾患)の患者の地域での回復期病床としての機能を担う。

さらに、2025年までには医師確保を行い外科系救急(整形疾患、小外科等)にも対応できるよう今後検討する。加えて、現在休床中の病床の一部で、介護施設や近隣の療養病床では対応困難な医療要求度の高い患者(透析医療や呼吸管理の必要な患者等)の介護施設(医療介護院等)の併設も必要と考えている。

②今後持つべき病床機能

救急医療を行うために急性期病床(145床程度)および高齢者のADL維持および、佐世保市中心部における高度急性期および外科系医療後の患者の回復期機能を、15床の地域包括ケア病床を用いて行う。

③そのほか見直すべき点

一部の一般病床の医療介護院転換(29床程度)を検討する。

[3.具体的な計画]

①4機能ごとの病床のありかたについて
〈今後の方針〉

	現在	将来
	(平成28年度病床機能報告)	(2025年度)
高度急性期	0	0
急性期	189(45床休床)	145
回復期	0	15
慢性期	0	0
(合計)	189	160
他		
医療介護院		29

一部病床を医療介護院に転換するために29床 一般病床を減床

〈年次スケジュール〉

	取組内容	到達目標
2017年度	合意形成に向けた協議	本プラン策定
2018年度	地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討	地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る
2019-2022年度	医師の確保	休床中のうち16床再稼働
2023-2025年度	西2階病棟の改修	西2階病棟の医療介護院化

②診療科の見直しについて
なし

③その他の数値目標について
〈医療提供に関する項目〉

病床稼働率	75%
手術室稼働率	内科中心のため目標設定できず
紹介率、逆紹介率	地域の医療機関の減少にともない目標設定できず

〈経営に関する項目〉

人件費比率	55%
医業収益に占める人材育成にかける費用	1%

[4.その他]

現在 当院にて修学生(医学生) 6名 (5年2名、4年1名、2年1名、1年2名)に資金を提供している。
2025年頃には医師として全員勤務予定である。